

極意伝承！ 第二項

機能訓練が苦手なりハビリ職員ほど
シーティングは上手いく！
利用者の座位が崩れたら
『1000%〇〇のせい』にすべし！

シーティングというのは、
『利用者』を変える技術ではなく『車イス』を変える技術です。

シーティングは最初から最後まで、
あなたが【その手】で直接利用者に何かするという事は一切ありません。
あなたが相手をするのは『利用者』ではなく『車イス』なんです。

あなたが車イスをいじり、
その車イスに座った利用者が、
『自分の力』で自分の座位を整える。
それがシーティングの【極み】です。

利用者を変えるのは、あなたじゃないんですよ。
あなたが変えた車イスが、利用者を変えるんです。

……この考え、伝わってますかね？
これを前提に、話を進めますよ。

あ、ちなみにもう一番大事なことは伝え終わったので、
「そんな当たり前なこと知ってんよ～」って方はここまでで大丈夫ですよ。
これを熟知してる方は、もうすでに現場で成果を出せてると思うので。

シーティングで成果を出せない方は
車イスではなく『利用者』を変えようとしています。

この方の座位が崩れるのは……

- ・体力がないから
- ・筋力がないから
- ・バランスが悪いから
- ・感覚障害があるから
- ・関節が硬いから
- ・ブツシャーがあるから

だから、利用者の機能を改善・回復させるために『機能訓練』を実施する。
見事機能訓練の成果が出て、利用者が変われば座れるようになる。
これがリハビリ職員さんに『ありがち』な思考です。

いわゆる「リハビリプログラム＝機能訓練」っていう固定観念ですね。
……この考え、実際多いんですよ。
ほくら学生のうちから、こんなことばっか叩き込まれてきますからね。
無理もないんです。自分がやってる施術や手技に自信がある
勉強熱心な方ほど、この傾向が強いですかね。

この方法で実際に成果が出せる方はそのままいいんです。
むしろすごいです。効果的な機能訓練ができて何よりの証拠なので。

……でも、ぼくは残念ながらその方法では成果が出せませんでした。
どれだけ機能訓練しても、いつまで経っても、
利用者は一向に座れるようにならなかったんです。

ぼくが成果を出せなかった理由は、腕前がわるかったせいもありますが、
それよりなにより、車イスの存在を甘く見てたからです。
『利用者』とばかり向き合って『車イス』を見てなかったんです。

これは結論ですが、
利用者は座りにくい車イスに座ってるから座位を崩してます。
車イスが座りやすければ座位は崩れません。
本当に、それだけなんです。→つづく